

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語表現Ⅳ（ビジネス文書概説） Writing JapanessⅣ		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力を高めたいと考えている人には「国語表現Ⅰ」（基礎知識）、「国語表現Ⅱ」（書簡文）、「国語表現Ⅲ」（小論文）の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
さらに国語力を高めたいと考えている人には「コミュニケーションⅠ」（敬語表現）、「コミュニケーションⅡ」（プレゼンテーション）の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大室 精一	みかも館2階	月火水木の9時～16時（授業時間除く）		授業中に指示します
授業の概要				
①昔話の学習（あらすじをメモする→印象深いシーンをイラストで描く→昔話の特色を解説する。）				
②テキストの学習（「文章の基本」「ビジネス文書」「推敲」等を講義する。）				
③演習問題（毎時間特定のテーマに対して「賛否両論」での短文を書く。）				
④漢字練習・国語常識（漢字は「読み書き」「難読語」等を扱い、国語常識では「日米のことわざ」の人生訓を解説する。）				
授業の目標				
①昔話の学習（昔話の理解が深まり、その特色を文章やイラストで表現する力を身に付けることができるようにする。）				
②テキストの学習（就職に役立つ「ビジネス文書」の基本を身に付けることができるようにする。）				
③演習問題（様々なテーマを賛否両論で考えることにより、批判力を高めることができるようにする。）				
④漢字練習・国語常識（常用漢字の力と国語常識を身に付けることができるようにする。）				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。				
①講義が中心になるが、一部に演習形式（自己PR・ディスカッション等）を含む。				
②毎時間プリントによる学習であり、表面は「昔話・テキスト関連・国語常識」、裏面は「漢字練習」である。				
③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果（学習成果）				
この授業を履修すると、あなたは				
①昔話の理解が深まり、その昔話の印象深いシーンを、文章とイラストで表現する力を身に付けることができる。				
②就職に役立つ「ビジネス文書」の基本を身に付けることができる。				
③様々なテーマによる表現活動の体験を通して、総合的な表現能力を高めることができる。				
④社会人として必要な常用漢字の力と、様々な国語常識を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス（勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について） プリント学習（漢字練習）			
第2回目	テキスト第1章「文章術レッスン」 演習→「賛否両論」の短文 昔話の世界「舌切り雀」 漢字・国語常識			
第3回目	テキスト第2章「文章の基本①」 演習→「賛否両論」の短文 昔話の世界「長靴をはいた猫」漢字・国語常識			
第4回目	テキスト第2章「文章の基本②」 演習→「賛否両論」の短文 昔話の世界「赤ずきんちゃん」漢字・国語常識			
第5回目	テキスト第2章「文章の基本③」 演習→「賛否両論」の短文 昔話の世界「カチカチ山」漢字・国語常識			
第6回目	テキスト第2章「文章の基本④」 演習→「賛否両論」の短文 昔話の世界「おむすび」漢字・国語常識			

第7回目	テキスト第3章「文章術①」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「鶯の里」	漢字・国語常識
第8回目	テキスト第3章「文章術②」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「鴨取り権兵衛」	漢字・国語常識
第9回目	テキスト第3章「文章術③」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「十二の月の神様」	漢字・国語常識
第10回目	テキスト第4章「ビジネス文書①」 課題「私の人生を変えた一冊の本」提出	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「三年寝太郎」	漢字・国語常識
第11回目	テキスト第4章「ビジネス文書②」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「醜いアヒル」	漢字・国語常識
第12回目	テキスト第4章「ビジネス文書③」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「白雪姫」	漢字・国語常識
第13回目	テキスト第5章「メール①」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「狼と七匹の子ヤギ」	漢字・国語常識
第14回目	テキスト第5章「メール②」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「猿と蟹」	確認テスト
第15回目	テキスト第6章「推敲の基本」	演習→「賛否両論」の短文	昔話の世界「プレーメンの音楽隊」	まとめ
成績評価の方法と基準				
評価の領域		割合	評価の基準	
授業参加態度		45%	毎時間プリントを配布し、授業後に回収して、授業への参加態度を記入状況により評価する。45点満点：毎時間のプリントを3点満点で評価(すべて記入なら優→3点、良→2点、可→1点)×15＝15～45点	
レポート		15%	「私の人生を変えた一冊の本」の課題の、表現力と自己分析の深さを記入状況により評価する。15点満点：課題の提出点が10点、レポートの完成度により1～5点を加える。	
調査報告書				
小テスト				
試験		40%	大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点：論述問題は記入してあれば5点、完成度により1～5点を加える。短答式は1問2点となる。	
発表内容(態度含む)				
その他				
教科書と参考図書				
教科書：『図解まるわかり ビジネス力をグンと上げる文章術の基本』(新星出版社・1000円) 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。				
履修上の留意点・ルール				
毎回の授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合には「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。				